

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

*** 岡山天体物理観測所の1960年の写真(東京天文台100周年記念誌資料1-20)**

東京天文台100周年記念誌資料の整理をやっている。今回はアーカイブ室新聞第346号(2010年6月9日)の東京天文台100周年記念誌作成時の資料—その1—の

20) さくらカラーネガ: 布川銀次郎事務長宛になっている。岡山の36インチ、74インチ、プレハブ小屋の写真がある。

このネガカバーに入っていた写真である。さくらカラーとあるが白黒写真のネガで、フィルムがネガカバーの硫酸紙にくっついてネバネバして非常に悪い状態で、膜面がどちらか判然としなかったが、スキャナーで取り込んでみると比較的状态は良かった。このネガカバーに35年8月31日の日付がある。布川銀次郎氏は当時の東京天文台事務長であった。布川事務長が岡山天体物理観測所に来られた際、職員全員と個別面談をしたのが印象に残っている。筆者はその時の懸案を話し、まもなく解決したことがあった。

ネガに収まっていたのは、下記の10枚の写真であった。



写真1



写真2

写真1は、観測所西の竹林寺山山頂の金比羅さんの場所から瀬戸内海を背景に撮った定番である。この写真には瀬戸内海は見えない。写真2は74吋望遠鏡ドームの2階ベランダから竹林寺山頂の金比羅山の松林を撮ったものである。



写真3



写真4

写真3は36吋望遠鏡ドームの2階ベランダから74吋望遠鏡ドームを撮ったもので、手前に踏切のゲートが見えている。写真4は74吋望遠鏡ドームベランダから36吋望遠鏡ドームを撮ったものである。36吋望遠鏡ドームは一足早く完成していた。



写真5

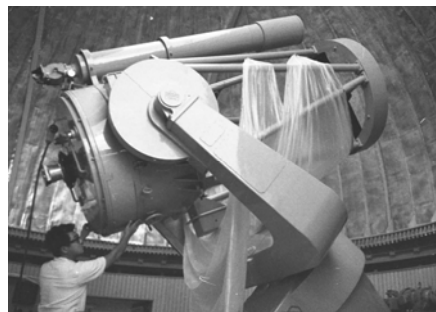


写真6



写真7

写真5は、74吋(188 cm)望遠鏡、写真6、7は36吋(91 cm)望遠鏡である。36吋望遠鏡は光電赤道儀と呼ばれたが、この写真では観測装置はついていない。



写真8



写真9



写真10

写真8は、74吋望遠鏡ドームから南西方向を見た写真である。今では山陽新幹線のトンネルの入り口あたりが見える写真であろうか。写真9、10は保税倉庫として使われたパイプハウスである。観測所開所後、何年かはこの建物は工場兼倉庫として使われ、その後、本館の敷地の東端に移設され、食堂、工場、車庫、倉庫として活用された。

これらの写真の撮られた1960年(昭和35年)8月といえば、まだ岡山天体物理観測所開所前であった。これらの写真はデジタル化されたので、状態はこれで保たれる。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp